

# 麻酔科

## (1) 一般目標(GIO)

- ① 厚生労働省卒後臨床研修目標の達成に努める。
- ② 外科系疾患の診療を行うに研修医として必要な基本的知識と技術を習得し、その診療態度を身につける。
- ③ 外科系研修にては、主に臨床医として必要な初期診療の外科的応急処置ができ、緊急手術の適応を判断できる。
- ④ 臨床各科で求められる基本的態度および診療だけでなく、麻酔科医として求められる専門知識および技能の習得のうち、基本的なものを習得する。

## (2) 行動目標(SBO)

- ① 麻酔科の具体的行動目標は「行動目標と評価」の項を参照。  
厚生労働省により指定された具体的研修項目のうち、当院にて麻酔科に割り振られた研修項目を達成し、これを評価すること。
- ② 麻酔科での初期研修では、患者さんの『苦痛を和らげ、いのちを守る』という医療の原点を学んでほしいと願っています。研修では、気管挿管などの手技が出来るようになることを第一の目的としがちですが、『患者さんときちんとコミュニケーションをとる』、『患者さんをしっかり診る』、『患者さんを適切に治療する』という医師としての基本的姿勢を身に付けることが大きな目標となります。麻酔専門医と指導医のもとで手術室での麻酔を経験することによって、周術期患者の全身管理を学んでいただきたいと思います。
  1. 医師としての自覚を持ち、エビデンスに基づいた診療ができる
  2. チーム医療の一員として、協調した診療ができる
  3. 基本的手技ができる
  4. 麻酔記録など適切な記録ができる
  5. 術前患者のプレゼンテーションができ、麻酔計画が立てられる
  6. 術前術後考慮した、術中管理ができる

## (3) 研修スケジュール

最短の1か月（4週間）を想定したスケジュールを提示するが、希望により延長できる。

当院スタッフは全員麻酔専門医である。必ずマンツーマンで研修を行う。

当院は外科・整形外科・形成外科・泌尿器科・歯科口腔外科・小児外科などが定時手術の中心であるが、同時に地域周産期センターであるため、産科・新生児科の手術がある。この手術の中から、症例を選び、研修する。1日の流れは、朝のカンファレンスに始まり、一日中麻酔指導医と行動を共にして、術前術後回診も含めて研修する。これまでの実績では気管挿管は当該期間で30例を目標にしている。その他の手技は研修医の経験と関心に応じて、研修する。